

第3章



計画改定の考え方

- 1 課題の整理
- 2 計画改定の視点
- 3 計画改定の考え方のまとめ

《第3章》の概要

第3章 計画改定の考え方

1 課題の整理

前章で示した“みどり”を取り巻く社会動向の変化や前計画の進捗状況、並びに「みどりに関する区民アンケート」や「緑と公園の推進会議」からの意見（いずれも資料編参照）などから、区の“みどり”の課題として以下の諸点を抽出します。

(1) 風土を形成する緑の保全

景観形成重点地区に指定されている赤塚公園周辺の崖線と、石神井川の桜並木等のみどり、江戸時代から板橋の名所となってきた崖線下の湧水、赤塚に点在する農地や屋敷林など、板橋らしさの重要な要素となっている緑が残されています。

板橋ならではの生物多様性の保全や、板橋らしさを継承する景観形成を目指し、板橋の風土を形成しまちの成り立ちを伝えるみどりを守り、さらに質を高めていく必要があります。

(2) 生物多様性の向上

都市の生物多様性は、気象緩和や災害防止、豊かな地域文化、自然とふれあう機会など、区民の暮らしに様々な恩恵をもたらしますが、板橋区では都市化とともに樹林地や農地、民有地のみどりが減少したことにより、生きものの生息・生育環境の量と質が低下してきました。

生きものの貴重な生息・生育地となっている崖線や荒川の自然地のまよりの確保と質の向上、その周囲に点在する屋敷林や社寺林等の樹林地や公園、庭木、農地、水辺などの緑の連続性を高めるなど、みどりの保全を通じた生物多様性の向上が求められています。

(3) 緑の量的な確保

区内の緑被率は微増傾向ですが、地域的な偏りが見られます。また、公園率はまだ目標には達しておらず、自然性を有する樹林地の消失や、平成34(2022)年以降の生産緑地地区の指定解除による農地の減少も危惧されます。

生活環境の快適性を向上させるために、今後も引き続き、みどりの量的な確保に取り組んでいく必要があります。

(4) 緑の質の向上

公園や緑地は区にとって貴重な資産ですが、公園施設の老朽化や樹林地の管理不足により、安全性の低下、落ち葉などへの苦情、生物多様性の低下などの問題がおきつつあります。

今後は、これまでの“守る、増やす”だけでなく、まちの骨格となるみどりと水のネットワーク形成や、地域の特性に応じたみどりの適切なマネジメント等を通して、生物多様性の向上や生活環境の改善、レクリエーションの場の提供、まちのシンボルとなる景観形成など、みどりの多様な機能を発揮させ、その質を高めていくことが必要です。

(5) 区民に緑の価値を実感してもらう

板橋区のまち中には、屋敷林、住宅街の美しい庭木、大径木など、魅力的なみどりが今も身近に残されています。しかし市街地の中では落葉や日照などの管理の問題から消えていくみどりも少なくありません。

みどりの保全や緑化の機運を高めるためにも、まずは区民が暮らしの中で、「癒される、季節感がある、歴史を感じさせる、地域のシンボルである」など、身近なみどりの魅力を実感し、みどりを「自分ごと」として捉えてもらうことが必要です。そして、子育て世帯にとって魅力ある公園、体験・学習の場としての自然地や農地、健康づくりや交流の場としての公園、防災機能を高めるみどり、心がいやされる美しい街並みをつくるみどり、まちの顔をつくるみどりなど、みどりが暮らしを豊かにし、まちのブランド価値を高める要素であることを、より多くの区民に実感してもらうことが必要です。

(6) 協働活動の活性化

板橋区では緑被地の約45%を住宅用地や空地、農用地、林野などの私有地が占めており、緑のまちづくりを進めるためには、官民の連携・協働が重要です。また、今後、みどりのストック効果を高めていく中で、区民をはじめ多様な主体との協働がさらに重要です。一方、区民参加の現場からは、市民団体の高齢化が進んでいる現状から、担い手の人材育成や、誰もがボランティア活動に入りやすくする工夫が必要、などの意見が寄せられています。また、区民アンケートの結果からは、緑との関わりの上で妨げになっていることとして、「取り組むために必要な情報が得られない」、「同じ関心を持った人たちと出会う機会がない」といった声が挙げられています。緑のまちづくりを今まで以上に活発で持続的な形にするために、多くの区民が緑のまちづくりに参加しやすい活動のメニューづくり

とともに、みどりに関心のある区民同士がつながる仕組みや、市民団体同士が情報を共有化できる仕組みを整え、みどりの市民活動のつながりを強めていくことが必要です。

2 計画改定の視点

課題を踏まえ、緑の基本計画改定にあたり、重視すべき視点を以下に整理します。

(1) グリーンインフラとしてのみどりの多機能性の発揮

みどりは、生物多様性の向上や生活環境の改善、レクリエーションの場の提供、まちのシンボルとなる景観形成、子育てや健康づくり、やすらぎとうるおいの提供、災害から人やまちを守る働きなど、様々な機能を持っており、まちの課題解決や、より住みやすく魅力的なまちづくりにおいて重要な役割を果たしています。

板橋区での暮らしを今より豊かなものとするため、“みどり”の多機能性を、都市のため、地域のため、区民のために引き出す計画とします。

(2) 協働の取り組みの推進

区内のみどりの保全や利活用は様々な区民や事業者によって支えられており、今後も区民や事業者とみどりの関わりを様々なかたちで深めながら、協働活動を推進していくことが重要です。

今ある“みどり”を保全し、将来に引き継いでいくため、区民・事業者との連携による質の高い“みどり”の管理運営など、協働の取り組みを推進する計画とします。

(3) 「東京で一番住みたくなるまち」への寄与

板橋区は、「東京で一番住みたくなるまち」と評価されることを目指しており、この目標の実現のためには、子育てや健康づくり、レクリエーションの場としての公園、体験・学習の場としての自然地や農地、防災機能を高めるみどり、美しい街並みをつくる“みどり”など、様々な“みどり”の価値を区民に実感してもらうことが重要です。

みどりに関わるあらゆる主体と協働しながら、みどりがもつポテンシャルを最大限引き出すことで、暮らしを豊かにする“みどり”の価値を区民に実感してもらい、「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちに近づく計画とします。

3 計画改定の考え方のまとめ

“みどり”を取り巻く社会動向 P7

● みどりのストック効果の向上

これまでの取り組みは、みどりを増やすことに主眼を置いてきましたが、今後は社会状況の変化に柔軟に対応し、“使うこと・活かすこと”を重視したまちづくりやサービスの提供などが求められています。

● 都市公園の柔軟な活用

様々なステークホルダー（利害関係者）との合意に基づきながら、それぞれの公園が持つ個性やポテンシャルに応じた整備・管理運営を行うことで、公園を柔軟に使いこなしていくことが求められています。

● 都市と農の共生

農地の有する多様な機能の発揮に向けて、緑の基本計画において都市農地の保全を位置付け、都市にあるべき緑地として保全していくことが求められています。

● 生物多様性の向上

緑地の規模や連続性を動植物の生息・生育地として、生物多様性の確保の観点から評価し、その適正な配置や有機的なネットワーク（エコロジカルネットワーク）の形成を図っていくことが求められています。

● 快適で安心安全なまちづくり

地球温暖化による猛暑日の増大や、東日本大震災等の発生を契機とした防災意識の高まりから、快適で安心安全なまちづくりが求められています。

● 区民との連携促進

都市公園の整備など行政が行うべきことを着実に推進していくことともに、みどりの質の高い管理・活用等については、地域住民組織や事業者などとの積極的なパートナーシップによって進めていくことが求められています。

“みどり”に関する区民ニーズ（資）

区民意識（区民アンケートの結果）

- “みどり”の満足度
 - ・ 住まいの周りの“みどり”の満足度は、高いとはいえない状況です。
- 好ましい“みどり”
 - ・ 将来も残していきたい“みどり”として、都立赤塚公園や石神井川の桜並木などが挙げられています。
- “みどり”の恩恵
 - ・ 多くの区民が“みどり”ある景色にいやされる、“みどり”があることで快適に暮らせると感じています。
- 取り組み意向
 - ・ ガーデニングに関心の高い区民が多い一方、同じ関心を持った人と出会う機会がないなどの声も上がっています。

● グリーンインフラとしての“みどり”の多機能性の発揮

生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など、自然の持つ多様な機能を活用して、持続可能な魅力あるまちづくりが求められています。

緑と公園の推進会議からの意見（資）

- “みどり”の量だけでなく“みどり”の質がとても大切である。
- “みどり”と“みどり”の価値に対する区民の認識が高くない。
- 区民が“みどり”のまちづくりに参加したくなる仕組みがない。

課題 P17

課題1：

崖線の樹林地や農地など、板橋の風土を形成する“みどり”を大切に保全していくことが必要です。

課題2：

“みどり”の保全を通じた生物多様性の向上が求められています。

課題3：

生活環境の快適性を向上させるために、今後も“みどり”の量的な確保が必要です。

課題4：

適切なマネジメントにより、“みどり”の質を高めしていくことが必要です。

課題5：

“みどり”が暮らしを豊かにする要素であることを、より多くの区民に実感してもらうことが必要です。

課題6：

“みどり”のまちづくりに区民が参加しやすいような仕組みづくり、活動のメニューづくりが必要です。

改定の視点 P19

“みどり”の多機能性を、都市のため、地域のため、区民のために引き出す計画とします。

区民・事業者との連携による質の高い“みどり”の管理運営など、協働の取り組みを推進する計画とします。

暮らしを豊かにする“みどり”の価値を区民に実感してもらい「東京で一番住みたくなるまち」に近づく計画とします。

計画のテーマ P25

“みどり”でつなぐ《ひと・まち・みらい》

施策展開のテーマ P26

テーマⅠ “みどり”を次世代につなぐ
《まもる・支える・継承する》

テーマⅡ “みどり”で街並みをつなぐ
《つくる・ひろげる・質を高める》

テーマⅢ “みどり”と人をつなぐ
《はぐくむ・楽しむ・参加する》

みどりのコラム